

## ジンの世界（前半）

説明： ジンの存在と能力についての簡潔な紹介。

より missionislam.com

掲載日時 20 Oct 2014 - 編集日時 19 Jul 2015

カテゴリ： [記事](#) > [イスラームの信条](#) > [「信仰の六ヶ条」とその他のイスラームの信条](#)



歴史を通して、人類は超自然現象や不可視の世界について深く魅了されてきました。私たちの世界と平行して存在する世界は、いつも人々にとって魅力的でした。一般的にその世界は「精神世界」として言及され、殆どの全ての人々はその概念について一定の理解を持ちます。一部の人々にとって、それらの精神は死人の靈魂、または幽霊を意味します。また他者にとってそれらは善もしくは悪の「力」であり、人間へのより強い影響力を勝ち取るために戦っているのだとされています。しかしながら、それらの説明はおとぎ話や空想の世界の産物にすぎません。そうした世界の正しい説明はイスラームによってもたらされ、イスラームも同様にそうした目に見えない世界の存在を主張します。イスラームによるジンの説明は、現代の神秘についての非常に多くの疑問に答えます。その世界への知識抜きにしては、ムスリムは非ムスリムのように古い質問について探し求めていたことでしょうか。それでは、ジンとは誰、もしくは何なのでしょう？

### その存在

ジンとは自由意志を持つ存在であり、人間の住む世界と平行する世界に住んでいます。アラビア語でジンは動詞「ジャンナ」から派生する言葉であり、「隠れた」「隠す」を意味します。そのため、彼らはその描写が指し示すように、人間からは物理的に隠されています。目に見えないという事実から、一部の人々は彼らの存在を否定します。しかしジンの世界が私たちの世界に及ぼす影響だけでも、アッラーの被造物に対するそうした近代社会の否定を論駁することが可能なのです。ジンの起源についてはクルアーンとスンナにおいて見出すことが出来ます。神はこのように述べられています。

“ 本当にわれは人類を、泥で形作って陶土から創った。またわれは先に燃え盛る炎から幽精〔ジン〕を創った。 ”（クルアーン15:26 – 27）

このように、ジンは人類より前に創造されました。彼らの物理的起源については、預言者（アッラーの慈悲と祝福あれ）は上記の章句を確認してこのように述べています。

“ 天使たちは光から創造され、ジンは煙のない炎から創造されたのだ。 ”（サヒーフ ムスリム

)

このジンの説明は、私たちに多くのことを伝えます。彼らは炎から創造されているため、彼らの性質は一般的に激しく熱情的であり、彼らと人間との関係はそうした基板の上に成り立っています。人間同様、彼らも神を崇拜し、イスラームに従うことが求められています。彼らの創造された目的は、人間が創造された目的と全く同じです。神はこのように述べられています。

“ ジンと人間を創ったのはわれに仕えさせるため。 ” (クルアーン51:56)

それゆえジンは、ムスリムまたは非ムスリムとなり得ます。しかし彼らの熱情的な性質ゆえ、その大半は非ムスリムです。それらの非ムスリムのジンは、全てが最も有名なジンであるサタン [1](#)

の軍隊の一員です。それら不信仰のジンは悪魔とも呼ばれます。預言者の時代にクルアーンの朗誦に驚愕したジンの一団がムスリムなったように、彼らもムスリムになることもあります。神は預言者に、その出来事を人々に告げ知らせるよう命じています。

“ 言え、「わたしにこう啓示された。一団のジンが(クルアーンを)聞いて言った。『わたしたちは、本当に驚くべき読誦を聞いた。正しい道への導きである。だからわたしたちは信仰し、主に何ものをも配さない。』 ” (クルアーン72:1-2)

ジンの世界は、多くの面で私たちのものと似通っています。彼らは飲食し、結婚し、子孫を残し、やがて死にます。しかし、彼らの寿命は私たちのそれよりもはるかに長いものです。また私たちと同様、彼らも至高なる神によって最後の審判を受けることとなります。審判の日、彼らは人類と共に居合わせ、楽園もしくは地獄に入れられます。

## 彼らの能力

ジンと人間を明確に分け隔てる相違点として、彼らの能力が挙げられます。神は彼らへの試練としてそうした能力を彼らに授けました。彼らがそれらによって他者を抑圧するのであれば、彼らはその責任を問われます。彼らの能力を知ることによって、私たちは身の回りで起きる神秘的な出来事について理解することができます。ジンの能力のひとつは、望み通りの姿形に変化することです。彼らは人間や動物、植物などいかなる形にも変化できます。世界中の多くの人々は特異な形をした生物を目撃しています。それらの生物が、異なる形に変化したジンであると推測することもできます。

他の生物の心と身体を乗っ取ることも、ジンが長らく得意とし続けてきた能力です。しかしながら、それは他者への重大な侵害であることから、彼らには禁じられています。人間への憑依は、常々非常に注目されてきました。しかし、この現象に関する真の知識はとても稀です。過去30年間において、憑依現象は広く知れ渡るようになりました。1970年台、「エクソシスト」や「ローズマリーの赤ちゃん」といった映画が憑依現象について脚光を浴びせました。しかし映画業界はキリスト教の影響が非常に強いため、その現象の知識はないに等しいものでした。人々にジンの憑依現象について教育するのではなく、エクソシストのような映画は人々に恐怖感を植え付けただけでした。

イスラームを通してのみ、私たちはそうした現象について理解することができます。私たちはムスリムとして、ジンが様々な理由で人間に憑依することを知っています。時には、

ジンとその家族のメンバーが事故によって害を受けたことが原因の場合もあります。または、ジンがその人物と恋に落ちた場合もあるでしょう。しかし憑依現象の原因の大半は、ただ単にそのジンが悪意に満ちており、邪悪であるからです。その理由から、私たちはクルアーンの頻繁な朗読に勤しむことを命じられているのです。預言者はこのように述べています。

“ 実に、アル＝バカラ章（クルアーンの第2章）が朗読される家から、悪魔は逃げ去るのである。  
”（アッ＝ティルミズィー）

もしも誰かが憑依されたのであれば、ジンを撃退するために神の御名が使われなければなりません。預言者と教友たちの慣行を見てみると、ジンを取り祓う祈願の言葉を多く見つけることができます。彼らは皆、憑依された人物を助けるために神へと祈りを捧げました。現代の祈祷師については、これとは正反対のことをします。祈祷師の多くは神以外の名前を呼んでジンを祓おうとします。ジンが去ると、彼らは自分たちの方法で成功したと思い込みます。しかしながら、それは祈祷師に従うことにより、祈祷師が神以外の何かを崇拝するよう仕向けたジンの策略なのです。しばしばジンは、祈祷師が去ると再び戻ってきますが、それは神の御言葉以外には彼らを止めるものは何もないことを知っているからです。

憑依されるのは人間だけではなく、動物や木々、その他の物体も含まれます。そうすることにより、悪いジンは人々が神以外のものを崇拝するよう仕向けるのです。偶像への憑依はその方法のうちの一つです。過去に、ヒンズー教の偶像がミルクを飲むという現象が世界中を震撼させました。ボンベイからロンドン、デリーからカリフォルニアまで、数えきれないほどの偶像がミルクを飲みました。象の神ガネーシャ、猿の神ハヌマン、シヴァ神、さらには男性器の偶像まで、まるで明日はないかのようにミルクを飲み始めたのです。不幸にも、多くの人々はそれに騙されてヒンズーの神々にミルクを供えに行きました。これは人々が偽りの神々を崇拝するよう仕向けたジンの仕業だったのでしょう。

---

脚注：

[1](#)  
キリスト教と異なり、イスラームはサタン（ルシファー）がジンであり、天使ではなかったとします。天使たちには背信する自由意志はありません。

## ジンの世界（後半）

説明：ジンによるオカルト現象、そしてそれらからいかに守られるべきかについて。

より [missionislam.com](http://missionislam.com)

掲載日時 27 Oct 2014 - 編集日時 27 Oct 2014

カテゴリ：[記事](#) > [イスラームの信条](#) > [「信仰の六ヶ条」とその他のイスラームの信条](#)

## ジンによるオカルト現象

彼らは浮遊することができ、人の目にも見えないことから、オカルト現象発生の主要な原因です。ブドゥー、黒魔術、ポルターガイスト、魔力、霊媒などはすべて、ジンの世界を知ることによって説明がつきます。魔術師による奇術や幻影も同様です。ジンは一瞬にして空間を移動することができるため、魔術師にとって彼らの存在は貴重なものです。彼らの魔術を手助けするのと引き換えに、ジンたちは彼らがジンやサタンを崇拝するよう求めます。それゆえ魔術師たちはジンやサタンを神として崇拝します。現在、私たちが目にする魔術師やエンターテイナーによるパフォーマンスはジンの助力によるものです。自由の女神を消したり、グランドキャニオンを飛び回ったり、バミュダ トライアングルから船の残骸を引き揚げたりといった奇術はみな、ユダヤ人の魔術師デビッド カッパーフィールドにより、大衆の目前で実際に行われています。人間がそれらの技をジンの助けなしで行うことは不可能です。もしデビッド カッパーフィールドがサタンに魂を売ったのだとしても、驚きには値しないことです。



ジンが最も頻繁に手助けをする活動のひとつに、占いがあります。預言者ムハンマドの到来前、占い師や予言者の存在は一般的でした。それらの者たちは、ジンの知識を頼りに未来について語っていました。ジンたちは諸天の最下層へ行き、神から得た未来についての情報を語り合う天使たちの会話に耳を澄ませます。ジンはそれを占い師に知らせます。このため、預言者の時代以前は占い師たちの占いは非常に正確だったのです。しかし、預言者の到来と共に諸天は天使たちによって堅く守衛されるようになり、聞き耳を立てようとするジンは流星によって撃墜されるようになりました。

“ また、呪われた凡てのサタンからもそれら（諸天）を守る。だが盗み聞きする者は別で、かれは紛いのない炎（流星）に追いかけられる。”（クルアーン15:17 – 18）

また預言者はこのようにも述べています。“ かれら（ジン）は魔術師や占い師の口が届くまで情報を伝達してくるが、時には彼らがそうすることのできる前に流星が彼らを撃ち落とすのだ。もしも彼らが撃墜される前に情報を伝達できたなら、彼らはそこに100もの嘘を付け加えるであろう。”（サヒーフ ブハーリー）ここからも明白なように、いかに占い師がその占いを時的に的中させるかが分かります。また、彼らがその大半を失敗させることも同様です。未来についての予言の一部を的中させたものの、その大半は完全に間違っていたノストラダムスのような人物がその良い例です。残念ながら、ムスリムたちの間にも占いをする人々が増加しつつあります。モロッコなどのムスリム国家を訪れると、夜間に目にするのできる流星の多さから、ジンの関わっている占いの多さを物語ります。それは諸天からサタンたちが追い払われている明白な証拠なのです。

占い師はカリーンを通して活動します。カリーンとは人間一人ひとりに割り当てられているジンです。このジンは、私たちの欲望に常に働きかけ善行から遠ざけようとしています。預言者はこのように述べています。“ あなたがたには一人ずつ、ジンが割り当てられているのだ。” 教友たちはこう尋ねました。“ あなたでさえ割り当てられているのですか？” 預言者は答えました。“ 私にさえ割り当てられている。ただし神はそれから私をお助けになっており、それはムスリムになったのだ。それは私に善行のみを促している。”（サヒーフ

ムスリム) カリーンは割り当てられた人間の生涯を通して付き添うため、揺りかごから墓地までその人物に何が起こったかを知り尽くしています。カリーンと交信することにより、占い師は知りたい人物について尋ねます。占い師は水晶や手相を見つつ、その人物について誰も知らないことをもっともらしく告げ知らせます。預言者は占い師を訪れることの重大性についてこう述べています。“ 占い師に接触し、何かを尋ねる者の礼拝は、40日間の昼夜に渡って受け入れられなくなるのだ。” (サヒーフ ムスリム)  
また彼はこのようにも述べています。“ 誰であっても占い師に接触してその発言を信じた者は、ムハンマドに啓示されたものを信じなくなった者なのだ。”

ジンの影響は占い師に限定されたものではありません。故人との交信に使われるウィジャボード、降霊会などはジンによって巧みに操作されたものです。愛する人との交信を望む遺族は、不安げにこう言います。「 なの？ 私たちに話しかけて、 ！」そしてジンが として話しだすと、人々は完全に欺かれてしまうのです。

ジンによる巧妙な操作の中でも、最も一般的なものは視覚に訴えかけるものです。それによってジンは、神への崇拝とは別のことに人々を逸します。人は自らの両目で何かを見てしまうと、それを否定することが極めて困難になります。ジンの世界についての知識、そして神への確固とした信仰を持つことのみによって、そうした試練に打ち勝つことができます。サタンたちにとって、過去数百年に渡りイエス キリストや処女マリアの幻影を出すことは非常に人気のある選択肢のようです。それらの幻影だけでなく、ジンはキリスト教徒たちに憑依し、彼らの声で語りかけたりもします。キリスト教徒にとっては、この現象は「天使の舌」と呼ばれ、彼らの信仰を証明するものでもあります。しかし、判別不能な発言や戯言は、それらが実際には「サタンの舌」であることの明白な証拠なのです。また、他にも両親や親族の幻影も一般的に見られます。人々の両親の姿になることによって、ジンたちは故人の靈魂が依然として人々と交信することができると思込ませます。このため、非常に多くの人々は幽霊の存在を信じているのです。

サタンによる幻影は、ムスリムたちにも多大なる影響を及ぼしています。多くのムスリムは預言者ムハンマドのみならず、神の幻影さえも目撃したと主張しています。そうすることにより、サタンは信仰心の弱いムスリムたちを惑わそうとします。そうした幻影を見たことにより、ムスリムたちはイスラームの命じることは彼らには当てはまらないのだと思込ませられます。ジンたちは彼らに、礼拝 断食 巡礼などは義務ではないと囁きかけます。それは重大な欺瞞であり、残念ながらとても効果を発揮しています。こうしたサタンによる幻影は現在進行形で続いています。ウェールズのダイアナ妃が交通事故死した際、英国の人々は彼女への熱愛と礼賛から、彼女を神格視した程でした。ダイアナ妃への追悼の念がピークに達した際、ハンプトン コート宮殿では彼女の幻影が目撃されたとされています。本当にそうした幻影があったのであれば、サタンとその一味が例の事件を利用しようとしたことは明らかでしょう。そのような幻影は、人類を神の道から逸らせようとするサタンの策略なのです。

## ジンからの庇護

私たちにはジンは見えないものの、かれらからは私たちが見えるため、預言者ムハンマドはかれらによる危害からの庇護の方法を多く伝えてしています。たとえばアッラー(神)による呪われしサタンからの庇護の祈り、聖クルアーン第113、114章の朗誦、またクルアーンの中で神が教えた言葉を唱えることなどがあります。“ そして(祈って)言いなさい。「主

よ、悪魔たちの囁きに対し、あなたの加護を願います。主よ、かれらがわたしに近付かないよう、あなたの加護を願います。」”（クルアーン23:97-98）

家に入る前、飲食の前、性行為の前にビスマッラー（アッラーの御名において）と唱えることは、サタンがその人物の家に入ったり、飲食物や性行為の最中に介入してこないようにします。同様に、預言者が述べたようにトイレに入る前や衣服を脱ぐ前にアッラーの御名に言及することは、ジンによって恥部を見られることや危害を加えられることを防ぎます。一般的な信仰強さや宗教の熱心さも、ジンによる危害を防ぎます。

預言者ムハンマドの教友の一人、アブー フライラと悪魔の逸話 [1](#) から分かるように、アル=クルスィー節をアラビア語で朗誦することも、ジンからの強い庇護となります。

また預言者ムハンマドはこのようにも述べています。“あなたがたの家を墓地のようにしてはならない。サタンはアル=バカラ章（第2章）が朗誦される家から逃げ去るのである”（サヒーフ ムスリム収録の伝承）

それらのアラビア語の章句、そして預言者ムハンマドにまつわる伝承は、いかにムスリムがジンに対する神のご加護を得るべきかについて教えます。イスラームはジンだけでなく、神によるすべての被造物との関わりについて説きます。イスラームはサタンやジンについての情報を私たちに与えており、それらによる危害からの庇護をいかに得るかについて説いているため、真のムスリムはサタンやジンを恐れるべきではありません。

ジンの世界は不吉であり、魅力的でもあります。その世界について知ることで、私たちが困らせる多くの謎や問題を説明することができます。そうすることで、私たちは神以外を崇拝するという人々が取った極端な行為を避けることができます。一神教について学ぶことによって、私たちはサタンの隠された一味から自分たちを守ることができるのです。

“かれ（悪魔）とかれの一味は、あなたがたの見えない所からあなたがたを見ている。”（クルアーン7:27）

---

脚注：

[1](#)  
アブー フライラはこのように述べています。“預言者ムハンマドは、私にラマダーン月の間に集められた義務の喜捨の見張り役を任されました。ある人物が来てそこから食料の一部を持ち出し始めました。私は彼を捕まえて言いました。「私はあなたを神の預言者のもとへと連れていかなければならない。」彼はこう言いました。「私は大きな家族を抱えた困窮者であり、必要に迫られているのです。」それゆえ私は彼を見逃しました。

翌朝に預言者に会うと、彼はこう言いました。「アブー フライラよ。あなたが捕らえた者は昨夜何をしたのだ？」私は言いました。「神の預言者よ。彼は大きな家族の切迫した困窮について訴え、私は彼に哀れみを感じたため見逃してやりました。」預言者は言いました。「彼はあなたに嘘をついたのである。彼はまた戻ってくるであろう。」私は彼が戻ってくるという預言者の言葉について確信していました。私は彼を待ち伏せしました。彼は再び忍び込み、喜捨の中から食料を盗み始めました。私は彼を捕らえて言いました。「私はあなたを預言者のもとへと連れていかなければならない。」彼は言いました。「放してください。私は困窮者なのです。私は大きな家族の出費に耐えなければなりません。もう戻ってはきませんから。」それゆえ私は哀れみを感じ、彼を見逃しました。

明け方に預言者のもとを訪れると、彼はこう言いました。「アブー フライラよ。あなたが捕らえた者は昨夜何をしたのだ？」私は言いました。「神の預言者よ。彼は大きな家族の切迫した困窮と負担について訴え、私は彼に哀れみを感じたため見逃してやりました。」預言者は言いました。「彼はあなたに嘘をついたのである。彼はまた戻ってくるであろう。」(その男は)戻ってきて食料を盗み出しました。私は彼を捕らえてこう言いました。「私はあなたを神の預言者のもとへと連れていかなければならない。そしてこれは三度目であり、最後だ。あなたはもう戻ってはこないと約束したが、戻ってきた。」

彼は言いました。「放してください。そうすれば神があなたを益する言葉を教えてあげましょう。」私は訊きました。「その言葉とは何だ？」彼は答えました。「床につく際にアル=クルスィー節(クルアーン255節)を唱えれば、あなたに神からの庇護者がやって来て、あなたは朝までいかなる悪魔からも護られるでしょう。」

それゆえ私は彼を見逃しました。翌朝神の預言者はこう尋ねました。「あなたが捕らえた者は昨夜何をしたのだ？」私は答えました。「彼は私が神から益される言葉を教えてくれたため、彼を見逃してあげました。」預言者は尋ねました。「彼があなたに教えた言葉とは何だったのだ？」私は言いました。「彼はこう言いました：あなたが床につく際、アル=クルスィー節を初めから終わりまで唱えると、それによって神からの庇護者が

あなたにやって来て夜間あなたを守り、朝までいかなる悪魔もあなたに近づくことはできないでしょう。」預言者は言いました。「彼は嘘つきではあるが、実に彼は真実を述べたのだ。アブー フライラよ、過去三夜においてあなたが話していた相手が誰だか分かるか？」私は言いました。「いいえ。」預言者は言いました。「あれは悪魔なのである。」(サヒーフ ブハーリーに収録の伝承)

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/669/viewall/>

Copyright © 2006-2015 [www.IslamReligion.com](http://www.IslamReligion.com). All rights reserved.